

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|-----------------|
| 施設番号 | 66-0791 |
| 施設名 | キッズタウンにしおおい |
| 施設所在地 | 東京都品川区西大井2-5-21 |
| 法人名 | 社会福祉法人こうほうえん |

1. 活動のテーマ

～自然～

【自然に親しみをもち、体や言葉で表現してみよう。】

<テーマの設定理由>

登園の園庭には様々な果実の木々があり、園周辺にもどんぐりの木や紫陽花といった多くの自然に囲まれた環境である。0歳児では探索活動において自然の変化を保育者から伝える事が主であるが、身近な自然環境の特色を活かして子どもの興味・発見を受け止めながら成長に繋がるよう、様々な角度から子ども達の育ちを見守り、それらを活用した保育活動を実践したいと考えたからだ。

2. 活動スケジュール

- ・5月～6月⇒探索を通して身近な自然を発見する。
- ・7月～8月⇒室内活動でも自然を感じられるような活動をする。
- ・9月～2月⇒戸外活動の中で身近な自然に興味を持ち、見たり触れたりする。

3. 探究活動の実践

◎準備した物・環境設定

- ・可能な範囲で園内外の探索活動を取り入れ、自然物を見たり触れたりして親しみを持てるようにする。
- ・室内でも季節の変化や自然の雰囲気味わえるよう、クラスに木の壁面を飾り、季節に合わせた飾りつけをする。また、猛暑で戸外活動が制限される時期は、壁面や写真、絵本や歌等を通して自然物への興味関心が持てるようにする。
- ・保育者とのやり取りを楽しみながら自然物を見たり触れたりすることで、自然物に対する興味関心を高めていく。
- ・自然や季節に関する歌や手遊びを通して、言葉のやり取りや身体表現を楽しみながら自然に親しみを感ぜられるようにする。

<活動の内容>

春は、初めての園生活に戸惑う子ども達の姿が多く見られた為、グループに分かれ少人数で担任と一緒に園内探索をして自然物と触れ合うことにした。園庭に咲く桜や葉を眺めたり、他のクラスで飼育している生き物を観察したりした。

夏になると気温が上がり、熱中症予防のために室内での活動が増えた。5歳児クラスの子どもに折り紙で虫や花を折ってもらい、壁面として飾ると興味を示し、壁面の装飾物を見たり手を伸ばしたりする姿があった。

秋から冬にかけては、子ども達の歩行も安定し始め、戸外活動を通して間近で自然物を見たり触れたりすることが出来るようにした。

また、年間を通して自然物に関わる歌に合わせて身体を動かしたり、歌ったりする活動も取り入れた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり>

子ども達はテラスや園庭、公園などで目にする葉や花に親しみを持って過ごしており、指をさしたり顔を近づけて観察したりしていた。「葉っぱ」「〇〇色」等、見つけた物を言葉で伝えようとする姿や「ビリビリ」「パリパリ」等のオノマトペで落ち葉の感触を表現する姿も見られた。

歌ったり体を動かしたりする活動を繰り返していくことで、メロディが聞こえると「どんぐり」「おうま」等の単語を言葉にしなが、体を動かして遊ぶ姿も見られた。

保育者が子どもの様子を言葉で褒めていくと、嬉しそうな笑顔を見せ「もっかい（もう一回）」と身振り手振りを加えながら話す様子があった。



・振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自然に親しみを持って生活することで、言葉の獲得や発語に繋がるのではないかと感じた。なぜなら保育者が子どもの視線を読み取り言語化をしていく過程で物と言葉の一致が出来るようになる姿や、興味のあるものを目にした時に「葉っぱいた」「おおきいね」等の自分の気持ちを言葉で伝えようとする姿が見られたからだ。

また、言葉の発達だけでなく、運動機能の発達も促すことが出来るのではないかと感じる場面があった。初めは草花を握って遊ぶ姿が多かった子ども達だったが、落ち葉に触れる遊びを繰り返す内に、指先を使って掴んでみたり千切ってみたりする様子が見られるようになったからだ。他にも、リズム遊びでどんぐり（寝返り）や馬（ハイハイ）になりきる活動では、保育者の手本を見ている姿が多かった子ども達が、真似をしてみよう

とするようになり、現在ではメロディを聞いただけで、意欲的に身体を動かすようになったからだ。

以上のことから、自然を通した活動が多方面の発達を担うものであるという気付きを得ることが出来たと共に、乳児期の子どもとの関りは丁寧に気持ちを受け止め、繰り返して伝えていくことが重要であることを再認識することが出来た。